



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：東京都中央区築地 3-6-2

電話：090-4269-5163

MAIL：22mp209@slcn.ac.jp

担当者の所属・氏名 聖路加国際大学院 公衆衛生学専攻 今村 倫敦

【研究責任者】

聖路加国際大学院 公衆衛生学専攻 今村 倫敦

【指導教員・研究協力者】

聖路加国際大学公衆衛生大学院 教授 大出 幸子

ヘリコバクター・ピロリ菌を除菌した方を対象とした

萎縮性胃炎進行との関連因子に関する研究

1.研究の対象

- ・ヘリコバクター・ピロリ菌を除菌された方で、かつ2014年4月～2023年3月に当院附属クリニック予防医療センターで複数回、上部消化管内視鏡を受けた方

2.研究の目的・方法

現在、胃がんにおいてはヘリコバクター・ピロリ菌の感染による胃粘膜の萎縮性変化が最も重要なリスク因子の1つであることがわかっています。胃粘膜の萎縮性変化の程度はヘリコバクター・ピロリ菌の感染期間が長いほど強くなることはわかっていますが、ヘリコバクター・ピロリ菌を除菌した方やもともと感染していない方にも胃粘膜の萎縮性変化が見られます。胃粘膜の萎縮度合に関連するヘリコバクター・ピロリ菌以外の要因が明らかになれば、今よりさらに胃がんの発生を抑えることができる可能性があります。今回予防医療センターにおいて健康診断および上部消化管内視鏡を受けた受診者さんにおいて、健診結果と内視鏡所見結果について調査することで萎縮性胃炎進行への関連因子を明らかにすることを目的としております。

なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は当法人研究機関の長による実施許可後～2024年3月31日までの予定です。該当データの利用開始は、2023年8月25日を予定しております。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

診療録 ID、性別、年齢などの問診情報、血液データ、ヘリコバクター・ピロリ菌除菌歴、内視鏡所見 等